

2016年度 日本気象学会東北支部第2回理事会 議案

日時：2017年2月27日（月）15時00分～17時00分

場所：仙台管区気象台第1会議室

開会の挨拶

出席者紹介

議 題

1. 2016年度事業報告	2 ページ
2. 2016年度会計報告	5 ページ
3. 2016年度会計監査報告	6 ページ
4. 2017年度事業計画案	
(1) 支部気象講演会	7 ページ
(2) 支部気象研究会	7 ページ
(3) 支部だより	7 ページ
(4) 支部理事会	8 ページ
(5) 支部強化基金による活動	8 ページ
(6) 日本気象学会奨励賞などへの応募	8 ページ
5. 2017年度予算案	9 ページ
6. 検討事項	
(1) 2018年度秋季大会の準備について	11 ページ
(2) 支部だよりの電子化について	15 ページ
(3) 支部長会議の報告	15 ページ
7. その他 事務局から	17 ページ

資 料

役員名簿（第30期2016年度）	18 ページ
東北支部規則	19 ページ
東北支部細則	20 ページ

議題 1. 2016年度事業報告

1) 東北支部気象講演会

日時：平成 28 年 11 月 19 日（土）14 時～16 時 30 分（開場 13 時 30 分）

場所：岩手大学総合教育研究棟（教育系）2 階 北桐ホール

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目 18 番 33 号

テーマ：「岩手県における大雨と風の災害」

演題および講師：

(1) 「岩手県における近年の大雨と防災気象情報」

山本 浩之氏（盛岡地方気象台 予報官）

(2) 「岩手県における風の災害と防風林」

名越 利幸氏（岩手大学 教授）

司会：吉田 裕美氏（岩手めんこいテレビ 気象予報士）

参加人数：約100名

主催：日本気象学会東北支部

共催：盛岡地方気象台、岩手大学「学校気象台」研究会

後援：岩手大学、岩手県、盛岡市

東北支部だより第84号に開催報告を掲載予定

共催の岩手大学「学校気象台」研究会には最新の視聴覚機器を取り備えた素晴らしい会場を、盛岡地方気象台には人的資源を提供いただいた。当日は、あいにく朝から雨となったが相次ぐ気象災害により気象防災への関心が高まっていることもあり、多くの方に来場いただいた。

2) 支部強化基金による活動

第7回気象サイエンスカフェ東北

日時：平成29年1月22日（日）14時～16時（開場13時30分）

場所：アエル 28 階エル・ソーラ仙台 大研修室

〒983-0842 宮城県仙台市

テーマ：「スーパーエルニーニョの次はラニーニャが心配！天気はどうなる！？」

話題提供：須賀 利雄氏（東北大学 教授）

司会：深水 瑤子氏（日本気象協会東北支局 気象予報士）

参加人数：約50名

主催：日本気象学会東北支部・日本気象予報士会東北支部

共催：日本気象協会東北支局・仙台管区気象台

気象サイエンスカフェのワーキングチームを立ち上げ、テーマ、開催日時場所、運営方法等を検討した。参加者は会場の立地の良さと、これまでのチラシ配布先に加え高校と近隣自治体にも広報に協力いただいたことも手伝って、ほぼ満席と大盛況だった。高校生から高齢の方まで幅広い年代の方に参加いただけたのは今回の特徴である。

3) 東北支部気象研究会

仙台管区気象台東北地方調査研究会との共催

日時：平成28年12月5日（月）10時30分～17時15分

場所：仙台第3合同庁舎 2階大会議室

発表：21題（発表応募12題、仙台管区気象台東北地方調査研究会9題）

参加人数：約70名

広く発表者を募る目的で年度当初から直接大学の研究室等にも参加を働きかけるとともに、希望のあった会員の発表者に対し、支部事業の一般会計から交通費を補助する取組を行った。これまで非会員だった学生にはこの機会に入会いただくなど、新入会員の獲得にも役に立った。

気象研究会の発表演題、著者（敬称略、発表者に○）

なお紙面の都合上、仙台管区気象台東北地方調査研究会の題目は省略

- ・NHMの筋状降雪雲内の雪片・あられの再現性について
○南雲 信宏、山田 芳則（気象庁気象研究所）
- ・2013年5月13日の仙台山形の気温差をもたらした要因
○岩場 遊、岩崎 俊樹（東北大院・理）
- ・チベット高気圧、太平洋高気圧の張り出しと北日本の暑夏・冷夏との関係
○宇賀神 惇、井上 誠（秋田県立大学）、山川 修治（日本大学）
- ・GOSATデータの検証と地上FTSの検定を目的とした航空機観測
○井上 誠、芳賀 ゆうみ（秋田県立大学）、森野 勇、内野 修、町田 敏暢、勝又 啓一（国立環境研究所）
- ・全球1kmメッシュの陸域炭素収支解析
○佐々井 崇博（東北大院・理）
- ・東アジアと北米における寒気流出
○菅野 湧貴¹、Muhammad Rais Abdillah¹、John E. Walsh²、岩崎 俊樹¹（1：東北大院・理、2：International Arctic Research Center, University of Alaska）
- ・NHMによる岩手豪雨の事例研究
○太田 風乃、名越 利幸（岩手大・教育）、津口 裕之（気象庁気象研究所）
- ・岩手県雫石町における霧の観測的研究
○石森 明洋、名越 利幸（岩手大・教育）
- ・愛媛県大洲市で発生する霧を伴った陸風『肱川あらし』の観測的研究
○黒坂 優、名越 利幸（岩手大院・教育）
- ・診断型積雪水量モデルを応用した屋根雪荷重推定の試み
○本谷 研（秋田大学教育文化学部）
- ・平成28年台風第10号による岩手県沿岸の大雨の特徴
○山本 浩之、田ノ下 潤一（盛岡地方気象台）
- ・東北地方における最近の大雨と防災気象情報
○桜井 美菜子（仙台管区気象台）

4) 東北支部だより

■第83号 (2016年9月発行)

- ・ 支部長就任あいさつ：田中 省吾氏 (日本気象学会東北支部長)
- ・ 寄稿「気象と交通障害について -2つの事例紹介」
：福山 博己氏 (日本気象学会東北支部 理事)
- ・ 平成27年度気象講演会報告
：境田 清隆氏 (日本気象学会東北支部 理事)
- ・ 日本気象学会東北支部第30期役員選挙結果について
- ・ 2015年度日本気象学会東北支部第2回理事会 議事抄録
- ・ 2016年度日本気象学会東北支部第1回理事会 議事抄録
- ・ 日本気象学会東北支部気象講演会のご案内
- ・ 第7回気象サイエンスカフェ東北のご案内
- ・ 東北支部「気象研究会」の開催案内と講演募集

■第84号 (2017年3月発行予定)

- ・ 寄稿「予報士と予報士会」
：杉山 公利氏 (日本気象学会東北支部 理事)
- ・ 平成28年度気象講演会報告
：和田 幸一郎氏 (盛岡地方気象台 台長)
- ・ 第7回気象サイエンスカフェ東北
：深水 瑤子氏 (日本気象協会東北支局・気象予報士)
- ・ 2016年度日本気象学会東北支部気象研究会報告
：斎藤 篤思氏 (日本気象学会東北支部 事務局)

5) 支部理事会

- ・ 第1回 (2016年6月17日, 仙台管区気象台第3会議室)
- ・ 第2回 (2017年2月27日, 仙台管区気象台第1会議室)

6) 日本気象学会奨励賞の推薦

- ・ 推薦はなし

議題2. 2016年度会計報告（2017年2月22日時点）

〔支部一般会計〕（2016年4月1日～2017年2月22日）

	予算額	決算額	差異
I 収入の部			
事業活動収入			
本部交付金	*1551,600円	551,600円	0円
前期繰越金	210,104円	210,104円	0円
事業収入（広告料等）	0円	0円	0円
雑収入			
預金利息	50円	69円	19円
事業活動収入計(1)	761,754円	761,773円	19円
II 支出の部			
事業活動支出			
事業費支出			
支部気象講演会	250,000円	213,662円	36,338円
支部気象研究会	100,000円	68,900円	31,100円
支部だより	200,000円	93,766円	106,234円
ホームページ運営費	15,000円	15,000円	0円
管理費支出			
支部理事会	85,000円	27,693円	57,307円
支部役員選挙	30,000円	18,414円	11,586円
事務費	50,000円	12,802円	37,198円
事業活動支出計(2)	730,000円	450,237円	279,763円
III 予備費支出			
予備費支出	31,754円	*26,516円	25,239円
予備費支出計(3)	31,754円	6,516円	25,239円
当期収支(A)=(1)-(2)-(3)	0円	305,020円	
次期繰越額(A)	0円	305,020円	305,020円

※マイナスの金額には、△印を付した。

*1：本部交付金は、支部会員168名×1,200円+35万円。

*2：2月22日時点、予備費の使用はサイエンスカフェ予算の不足分の補填のみ

黄色塗りつぶしは、今年度まだ事業（支出予定）が残っているもの

〔支部強化基金による活動会計〕（気象サイエンスカフェ東北）

	予算額	決算額	差異
I 収入の部			
事業活動収入			
本部交付金	85,000 円	85,000 円	0 円
気象予報士会東北支部分担金	10,000 円	22,080 円	△12,080 円
事業収入（広告料等）	0 円	0 円	0 円
雑収入	0 円	0 円	0 円
事業活動収入計(1)	95,000 円	107,080 円	△12,080 円
II 支出の部			
事業活動支出			
事業費支出			
資料印刷費	20,000 円	33,696 円	△13,696 円
会場費 開催費	20,000 円	35,731 円	△15,731 円
講師謝金	15,000 円	16,500 円	△1,500 円
事務費	5,000 円	2,449 円	2,551 円
役務費・交通費	35,000 円	25,220 円	4,780 円
事業活動支出計(2)	95,000 円	113,596 円	△23,596 円
当期収支差額=(1)-(2)	0 円	6,516 円	△6,516 円

※マイナスの金額には、△印を付した。


※不足分の6,516円は、一般会計から補填して対応した。

議題3. 2016年度会計監査報告（2017年2月22日時点）

預金通帳、領収書を照合の結果、誤りが無いことを認めます。

2017年2月22日

日本気象学会東北支部会計監査

小池二郎 

議題4. 2017年度事業計画案

(1) 東北支部気象講演会

【概要】

日 時：未定

会 場：未定

テーマ：未定

- ・2017年度は秋田県で開催予定、テーマ等は未定。今後準備を進めていくこととした
い。

2010年度以降の開催状況

年度	開催地	講演者	
2010年度	秋田市	佐藤 威	栗田 邦明
2011年度	盛岡市	岩崎 俊樹	神田 英司
2012年度	山形市	阿部 修	柳澤 文孝
2013年度	弘前市	楠 研一	児玉 安正
2014年度	福島市	渡邊 明	小畑 英樹
2015年度	仙台市	岩崎 俊樹	小森 大輔
		渡辺 真二	廣川 康隆
2016年度	盛岡市	山本 浩之	名越 利幸

方針：気象講演会は原則として「持ちまわり」で開催する。ただし、他のイベント等との同年開催については配慮を行うとともに、会員等からの開催・運営の意向があった場合、宮城県等他県での開催も可能とし、担当理事がこれを調整する。なお開催地を変更する場合は、準備の都合上、開催前年度の第2回理事会前（例年2月～3月）に東北支部事務局へ通知することとする。

(2) 東北支部気象研究会

- ・仙台管区气象台との共催で開催を予定する。
- ・2017年度の開催については、仙台管区气象台の防災調査課担当官と検討し、气象台の東北地方調査研究会と東北支部気象研究会の合同発表会の形式で行うことを計画する。
- ・より多くの発表者を募るため、遠隔地の学生会員および研究を本務としない会員の発表者には、気象学会東北支部から交通費の一部補助を引き続き行いたい。

(3) 東北支部だより

- ・年2回発行(第85号、86号)の予定。
- ・作業簡略のため、発行作業は原稿のとりまとめまでとし、編集、印刷及び会員への発送は2016年度と同様に業者発注とする。

(4) 支部理事会

- ・例年は年2回（5～6月、3月頃予定）開催している。
- ・議論が必要な場合は、適宜臨時理事会を開催する。
- ・2017年度第1回理事会は、各事業の担当理事を確認するため、新年度の早い時期に開催したい。

(5) 支部強化基金による活動

- ・第8回気象サイエンスカフェ東北を、秋～冬頃に仙台市で開催する。テーマや講師等は、日本気象予報士会東北支部と連携して検討を行う。

【概要】

日 時：未定

会 場：未定

テーマ：未定

(6) 日本気象学会奨励賞などへの推薦

議題5. 2017年度予算案

〔支部一般会計〕

	2017年度 予算額	2016年度 予算額	予算増減額 [2017年—2016年]	2016年度 決算額
I 収入の部				
事業活動収入				
本部交付金	*1551,600円	551,600円	0円	551,600円
前期繰越金	*2150,000円	210,104円	△60,104円	210,104円
事業収入(広告料等)	0円	0円	0円	0円
雑収入				
預金利息	50円	50円	0円	69円
事業活動収入計(1)	701,650円	761,754円	△60,104円	761,773円
II 支出の部				
事業活動支出				
事業費支出				
支部気象講演会	250,000円	250,000円	0円	213,662円
支部気象研究会	100,000円	100,000円	0円	68,900円
支部だより	200,000円	200,000円	0円	93,766円
ホームページ 運営費	15,000円	15,000円	0円	15,000円
管理費支出				
支部理事会	85,000円	85,000円	0円	27,693円
支部役員選挙	0円	30,000円	△30,000円	18,414円
事務費	50,000円	50,000円	0円	12,802円
事業活動支出計(2)	700,000円	730,000円	△30,000円	450,237円
III 予備費支出				
予備費支出	1,650円	31,754円	△30,104円	6,516円
予備費支出計(3)	1,650円	31,754円	△30,104円	6,516円
当期収支差額 (A)=(1)-(2)-(3)	0円	0円	0円	305,020円

※マイナスの金額には、△印を付した。

*1本部交付金は、支部会員168名×1,200円+35万円。

*2繰越金は暫定。

黄色塗りつぶしは、今年度まだ事業(支出予定)が残っているもの

〔支部強化基金による活動会計〕（気象サイエンスカフェ東北）

	2017年度 予算額	2016年度 予算額	予算額増減 [2017年-2016年]	2016年度 決算額
I 収入の部				
事業活動収入				
本部交付金	85,000円	85,000円	0円	85,000円
気象予報士会東北支部分担金	*110,000円	10,000円	0円	22,080円
事業収入（広告料等）	0円	0円	0円	0円
雑収入	0円	0円	0円	0円
収入計(1)	95,000円	95,000円	0円	107,080円
II 支出の部				
事業活動支出				
事業費支出				
資料印刷費	30,000円	20,000円	10,000円	33,696円
会場費 開催費	20,000円	20,000円	0円	35,731円
講師謝金	15,000円	15,000円	0円	16,500円
事務費	5,000円	5,000円	0円	2,449円
役務費・交通費	25,000円	35,000円	△10,000円	25,220円
事業活動支出計(2)	95,000円	95,000円	0円	113,596円
当期収支差額=(1)-(2)	0円	0円	0円	△6,516円

※マイナスの金額には、△印を付した。

*12017年度気象予報士会東北支部分担金は予定。

議題6. 検討事項

(1) 2018年度秋季大会の準備について

1) 日程と会場

日程：2018年10月29日（月）～11月1日（木）

会場：仙台国際センター（予定、仮予約中）（3.5日4会場）

2) 施設の予約について

全館（会議棟と展示棟）が利用時間09:00～21:30について仮予約中となっている。仮予約期限は2017年2月28日（火）である。仙台国際センターに確認したところ、使用する施設を確定後、使用しない部屋は早めにリリースして頂きたいとのこと。ただし、仮予約期限日以降でも違約金等は発生しない。

なお、2008年度、13年度の大会では、会議棟の以下の施設を使用した。

- ・大ホール（シンポジウムのみ）
- ・大会議室 橘（A会場）
- ・大会議室 萩（B会場）
- ・大会議室 白樺1（D会場）
- ・展示・レセプションホール 桜1（ポスターセッション）
- ・展示・レセプションホール 桜2（C会場）
- ・控室5、小会議室4・5、応接室、厨房等

会場費見積もり総額は ¥2,675,700（会場費、附帯設備使用料を除く）。

3.5日4会場としたことによる2013年度との差額は、+863,150円（約48%増）。

	2018年度（見積もり）	2013年度支出
会場費	2,675,700	1,812,550
研究会会場費		57,200
会場施設費		474,664
理事会開催費		53,508
印刷製本費		320,250
役務費		346,300
設営費		84,000
旅費交通費		119,600
通信費		44,299
保育支援費		11,000
事務費		45,460
合計		3,368,861

補足：消費税増税及び施設利用料改定があったため、仮に2013年秋季大会と同じ日程（3日4会場）で開催したとしても経費は約40万円（約23%）高くなっていることに留意（2013年：約180万円→2018年：約220万円）

3) 行動計画案

年 月	本部関係	経過と今後のスケジュール (支部関係)
2017年 2月		<ul style="list-style-type: none"> ・仙台国際センターへ会場仮予約の一部変更を行う。 ・2016年度第2回理事会 … 行動計画等の確認
6月		<ul style="list-style-type: none"> ・2017年度第1回理事会 … 準備委員会の立ち上げ等の確認
7月		<ul style="list-style-type: none"> ・日程案、予算案の作成 → 本部への連絡
8月		<ul style="list-style-type: none"> ・本契約手続きの確認に関する打合せ ・仙台観光コンベンション協会へ会議の登録 ・仮予約 → 使用申込書の提出
9月		<ul style="list-style-type: none"> ・準備委員会のための準備作業 … メンバー,日程,予算,役割分担(案)
10月	2017年度 秋季大会 (札幌)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回準備委員会 … 理事会に向けて ・秋季大会の見学? ・現地事務局と打合せ?
11月		<ul style="list-style-type: none"> ・2017年度理事会 (在仙理事 or メール会議) … 日程,予算,シンポ(案)、寄付、などの検討 ・秋季大会実行委員会の設置
12月		
2018年 1月		<ul style="list-style-type: none"> ・寄付金の具体的な取組検討 ・寄付金振込み専用口座の開設 ・宿泊、交通関係外注の検討
2月		<ul style="list-style-type: none"> ・大会告示原稿について確認 (講演企画委員会) … 必要な資料の準備
3月		<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会 … 企画書、会場、寄付、シンポのテーマ案など作成 (理事会用) ・2017年度理事会・実行委員会 … シンポのテーマ・講演者、寄付、企画運営等決定 ・寄付金依頼の開始 ・大会告示原稿の送付 (講演企画委員会)
4月		<ul style="list-style-type: none"> ・異動に伴う欠員の補充等 ・シンポジウム講師依頼文書発送
5月	春季大会 (東京) 「天気」 秋季大会告示	<ul style="list-style-type: none"> ・春季大会の見学? ・2018年度第1回理事会、実行委員会 … シンポジウムのテーマ、講演者決定、企画・運営 分担等決定 ・秋季大会実務担当者の選任と委嘱

6月	「天気」予稿集 申込み案内	・シンポジウム講演要旨集への広告掲載案内
7月		
8月	講演申込〆切	・秋季大会交付金及び全国理事会費申請 ・仙台観光コンベンション協会への助成金の申請 (末日〆切?)
9月	天気9月号 プログラム掲 載	・仙台国際センター使用料納入期限 (???) ・実行委員会 … 大会プログラム、パート別企画と進 捗状況、予算・会計等
10月	秋季大会 (29-1日)	・シンポジウム要旨集原稿〆切 ・シンポジウム要旨集印刷 ・実行委員会 … パート別企画と進捗状況確認
11月		・実行委員会 … 最終確認
12月		・仙台観光コンベンション協会へ実施報告書の提出

【参考】2013年度秋季大会実行委員

<実行委員会>

委員長	： 牧原康隆(仙台管区気象台長)	(支部長)
副委員長	： 岩崎俊樹(東北大学教授)	(常任理事)
委員	： 青木周司(東北大学教授)	(常任理事)
早坂忠裕(東北大学教授)		(委員)
山崎 剛(東北大学准教授)		(幹事)
岩渕弘信(東北大学准教授)		(委員)
彦坂健太(日本気象協会東北支局情報事業課)		(委員)
葦澤 浩(仙台管区気象台技術部長)		(常任理事)
小室 肇(仙台管区気象台技術部気象防災情報調整官)		(会計監査)
白川栄一(仙台管区気象台技術部予報課長)		(常任理事)
金濱 晋(仙台管区気象台技術部気候・調査課技術専門官)		(幹事)
折笠成宏(仙台管区気象台技術部気候・調査課調査官)		(幹事)

<役割分担>

○総括

会場班	岩崎
総務班	葦澤
会計班	白川
シンポジウム班	青木
懇親会班	白川

○分野別担当

会場班	A・B会場	早坂
	C・D会場	山崎
	授賞式・シンポ	岩渕
	ポスター会場	青木
総務班	受付	金濱
	寄付助成・企業展示	折笠
	招待・報道	折笠
	販売・入会	彦坂
	理事会	岩崎
	保育支援	折笠
	大会事務局	折笠
会計班		折笠、小室(会計監査)
シンポジウム班		青木、折笠
懇親会班		白川、折笠、金濱

(2) 支部だよりの電子化について

経費節減の観点から、東北支部に登録のある会員へのご案内等を電子メールで送付することを検討したい。将来的には、支部だより等の刊行物は完全電子化（印刷・郵送の取り止め）し、東北支部ホームページへの掲載を電子メールでお知らせすることを目指す。これに際し、会員には経費節減の必要性などを丁寧に説明する必要があり、会員の要望を聞き取り対応することで、理解を得て進めたいと考える。

このため、支部だよりの郵送時にアンケート用紙を同封し、会員の電子メールアドレスをお知らせいただくようお願いとあわせて、気象学会に対する会員の要望を記入の上、回答いただくこととしたい。

(3) 支部長会議の報告

昨年行われた第39期第1回支部長会議での議論を受け、以下の観点から意見交換を行いたい。

1) 学会員確保について

✓ これまでの各支部理事会等での議論内容

- ◇ 気象台職員（特に若手）の学会離れが近年顕著であり、気象台側の有償・無償の負担は限界に達している。
- ◇ 気象台職員の会員数は50代前半にピークがあり、10年後には会員数の大幅な減少が見込まれる（下図）。一方、研究者は30～40代にかなりの数の会員がいる。事務局運営を気象台から、大学・研究機関への移管を視野に入れる必要がある。

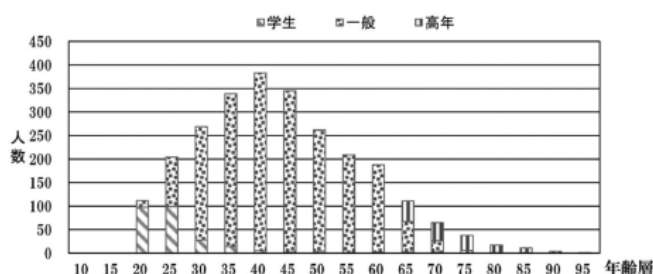


図1：年齢層別・会員区分別の個人会員の構成（2014年9月時点、天気2015年5月号より引用）

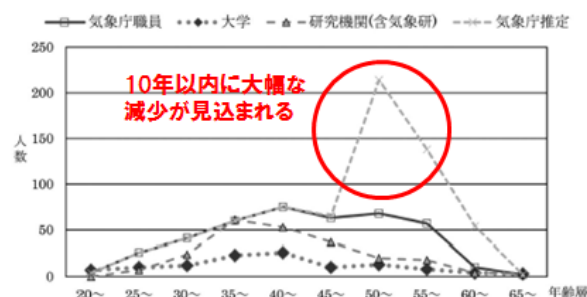


図2：年齢層別・所属機関別の会員人数（2014年9月時点、天気2015年5月号より引用）

✓ これまでの東北支部での検討事項

- ◇ 会員は多いほど良いのか。学会員でいられることのステータスを大事にしてはどうか。
- ◇ 気象学会で気象予報士のためのCPD制度やそのポイントを得られる仕組みを用意すれば、気象予報士の会員増につながるのでは。
- ◇ 秋季大会は平日開催のため一般の社会人の参加は難しく、学生時代に気象に興味があった会員も就職すると退会してしまう傾向がある。
- ◇ 最新の天気や気象集誌の閲覧制限期間（現在は約2ヶ月）を会員・非会員でより

差別化しては。

- ◇ 天気や気象集誌等の機関紙の掲載内容をより魅力的なものにすることが、会員増につながると考えられる。
- ◇ 外注も含めて、事務局の負担をできるだけ減らしていくことが重要。
- ◇ 事務局業務を任される負担の懸念が、気象台職員の会員数減につながっている可能性があるのでは。
- ◇ 気象台以外の第2の事務局の受け皿としては、大学があげられる。

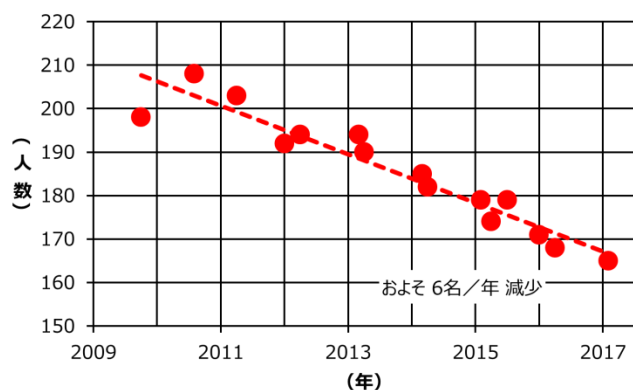


図3：気象学会東北支部会員人数の推移
(事務局まとめ、2009年以降)

- ✓ 東北支部での検討事項

2) 学会活動との一体感を感じることができるとような情報共有・活動のあり方

- ✓ 東北支部での検討事項

3) 「地球観測の強化に向けて日本気象学会は何をなすべきか」(評議員会次回諮問)

- ✓ 東北支部での検討事項

議題7. その他（事務局から）

① 東北支部会員数（個人会員）

2017年2月9日現在

県名	会員数	2016.04
青森県	22名	21名
岩手県	16名	16名
秋田県	14名	13名
山形県	14名	14名
宮城県	79名	84名
福島県	20名	20名
合計	165名	168名

3名減

② 旅費等について

交通費については

青森は 21,000円 [10,500円×2]

弘前は 22,300円 [11,110円×2]

秋田は 20,100円 [10,030円×2]

盛岡は 12,200円 [6,090円×2]

山形は 2,100円 [900円×2+140円×2]

福島は 2,600円 [1,280円×2]

仙台、岩沼は1,000円をお願いします。

※100円未満の端数は切り上げています。

日本気象学会東北支部第 30 期 2016 年度役員名簿

2017 年 2 月 27 日現在

支部長	田中 省吾	仙台管区気象台長
常任理事	青木 周司	東北大学大学院教授（理学研究科）
	岩崎 俊樹	東北大学大学院教授（理学研究科）
	境田 清隆	東北大学大学院教授（環境科学研究科）
	杉山 公利	日本気象予報士会東北支部長
	福山 博己	日本気象協会東北支局事業サービス課主任技師
	藤田 司	仙台管区気象台気象防災部長
	桜井 美菜子	仙台管区気象台気象防災部予報課長
地方理事	名越 利幸	岩手大学教授（理科教育科）
	岩尾 尊徳	秋田地方気象台長
会計監査	小池 二郎	仙台管区気象台気象防災部気象防災情報調整官
幹事	山崎 剛	東北大学大学院准教授（理学研究科）
	岩渕 弘信	東北大学大学院准教授（理学研究科）
	斎藤 篤思	仙台管区気象台気象防災部防災調査課 調査官
	佐藤 賢一	仙台管区気象台気象防災部地震火山課 技術主任

日本気象学会東北支部規則

昭和 32. 5. 26	成立
昭和 32. 7. 5	第 8. 11 条を改正、 第 15～19 条を追加
昭和 40. 11. 18	第 8 条を改正
昭和 56. 10. 12	第 2 条を改正
昭和 60. 3. 19	第 9 条を改正
平成 2. 6. 21	第 8 条を改正
平成 6. 2. 28	第 8. 9. 12. 14. 18 条を改正
平成 9. 6. 3	第 2 条を改正
平成 22. 6. 11	第 8 条を改正
平成 25. 6. 20	第 1. 2. 18 条を改正
平成 27. 3. 12	第 18 条を改正
平成 28. 2. 29	第 13 条を改正

- 第 1 条 本支部は公益社団法人日本気象学会東北支部という。
- 第 2 条 本支部は事務所を仙台市宮城野区五輪一丁目 3 番 15 号第 3 合同庁舎、仙台管区気象台内に置く。
- 第 3 条 本支部は東北 6 県に在住する全ての日本気象学会員で構成される。
- 第 4 条 本支部は日本気象学会の定款の範囲内で事業を行うが、特に支部会員の研究の奨励、推進ならびに相互の連絡につとめることを目的とする。
- 第 5 条 本支部は前条の目的を達成するために、講演会ならびに学術的会合の開催、その他この支部の目的にかなう事業を行う。
- 第 6 条 本支部の事業年度は毎年 4 月 1 日にはじまり、翌年 3 月 31 日に終わる。
- 第 7 条 本規則の実行に必要な細則は、支部理事会の決議によって別に定める。
- 第 8 条 本支部に次の役員を置く。
理事 8～11 名（常任理事 2～8 名内支部長 1 名）、会計監査 1 名。
- 第 9 条 理事および会計監査は支部会員の選挙によって定める。
ただし、任期中に欠員が生じた場合は細則の定めるところによって補充する。
- 第 10 条 支部長および常任理事は理事の互選によって理事の中から定める。
- 第 11 条 支部長はこの支部を代表して会務を総理する。支部長に事故があるとき、または欠けたときは、支部長があらかじめ指名した常任理事がその職務を代行する。
- 第 12 条 理事はこの支部の会務を行う。会計監査は支部の会計を監査する。
- 第 13 条 支部長は必要に応じ、会務の一部を処理するため幹事（3～4 名）を置くことができる。
- 第 14 条 理事および会計監査の任期は 2 年とする。ただし、重任は妨げない。
理事および会計監査は任期満了後でも後任者の就任するまでその職務を行う。
- 第 15 条 支部長は毎年 1 回および必要に応じて理事会を招集する。
- 第 16 条 理事会は過半数の理事の出席がなければ成立しない。
- 第 17 条 支部長は次の事項を理事会の承認を得て会員に報告しなければならない。
（1）事業計画および収支決算
（2）その他理事会において必要と認めた事項
- 第 18 条 本支部の経費は本部交付金（支部強化基金を含む）と寄付金とする。
- 第 19 条 この規約は理事の 3 分の 2 以上の賛成を得なければ変更することができない。
- 付則
- 第 20 条 この支部の設立当初の役員は設立準備会でこれを選任する。

以上

日本気象学会東北支部細則

昭和 33. 7. 5	成立
昭和 40. 11. 18	1 項を改正
昭和 41. 3. 15	7 項を改正
昭和 60. 3. 19	12、13、14 の各項を改正
平成 6. 2. 28	1、8、9、12、13 の各項を改正
平成 22. 6. 11	1 項を改正
平成 27. 3. 12	1 項を改正

役員の選挙

- 1 理事は東北地区在住の会員より 8～11 名選出する。このうち在仙理事 5～8 名、地方理事若干 3 名とする。
会計監査は東北地区在住の会員より 1 名を選出する。
- 2 次期理事の定数および在仙・地方別理事数は理事会で決定する。
- 3 候補者は理事会の推薦者および立候補者とし、投票締切日の 20 日前までに決定のうえ、会員に周知させるものとする。
- 4 立候補者は投票締切日の 30 日前まで支部長宛に届け出るものとする。
- 5 投票は無記名連記とする。ただし、連記数は第 2 項の決定による在仙・地方別理事数とする。
- 6 投票は文書投票とする。
- 7 有効投票により、各地区別に投票の多い順に次期理事を決定する。同数の場合は年少者を上位とする。ただし、得票数が有権者の 10 分の 1 に満たない者は理事に就任することができない。次点者も同様とする。
- 8 当選者が理事および会計監査就任を辞退した場合は次点者を繰り上げる。
- 9 理事および会計監査に欠員が生じた場合の補充は次点者をあてる。
- 10 開票は常任理事立ち会いのもを行う。
- 11 開票の結果は会員に報告する。
- 12 理事および会計監査に欠員を生じ、第 9 項による補充ができない場合は、理事会の推薦によって補充する。
- 13 第 9 項または第 12 項による補充理事および会計監査の任期は前理事および会計監査の残存期間とする。
- 14 そのほか選挙にあたって必要事項は支部長が決定し、事後に理事会に報告する。

以上